

コロナ禍の国際ソーシャルワーク研究活動事例報告：

アジア国際社会福祉研究所（ARIISW）の場合

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 松尾加奈

1. アジア国際社会福祉研究所の概要

淑徳大学は2016年4月1日、「国際ソーシャルワーク研究をとおしてアジア、世界のソーシャルワークの前進に貢献する」というミッションのもと、アジア国際社会福祉研究所(Asian Research Institute for International Social Work: ARIISW)」を開設した。初代所長は秋元樹(元アジア太平洋ソーシャルワーク教育学校連盟(APASWE)会長、元国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)副会長、日本女子大学名誉教授)である。ARIISWの特徴として、アジアー仏教ー社会福祉の研究及びネットワーク構築を目指す「アジア仏教社会福祉学術交流センター」(2014年4月1日設立)が内包されている点である。このセンターのミッションは、①アジアにおける仏教ソーシャルワーク研究のハブとなること、②仏教ソーシャルワーク研究を進めることを通して、アジアと世界の社会福祉研究教育の発展に寄与すること、である。ARIISW 発足直前に採択された、文部科学省私立戦略的研究基盤形成支援事業(研究名「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」、研究期間:2015-2019年度))が開設したばかりの活動・運営を飛躍的に進める礎になった。

ARIISW は9項目の分野(①国際共同研究、②国際会議、③人的・組織的交流、④人材養成、⑤研究会、⑥資料収集、⑦出版、⑧国際組織への貢献、⑨他国大学への協力)を通じ、「世界に一つの研究所となる」夢を実現すべく活動が続いている。日本の社会福祉研究の中で、日本の国境を越え、アジア・仏教(宗教)・国際ソーシャルワークを俯瞰する視点で捉え、研究及び社会貢献を進めている。発足当初より専任研究員は日常的に国際共同研究、研究成果の発信及び交流、ソーシャルワーク国際組織への貢献する活動を展開し、またプログラム研究員やリサーチ・フェローとともに精力的に国外出張を重ね調査研究を続けてきた。また、「淑徳大学アジア国際社会福祉研究所国際学術フォーラム」を毎年開催し、海外研究者を招聘、交流を図ってきた。

2. コロナ禍での国際ソーシャルワーク研究

2020年度以降のコロナ禍及び緊急事態宣言による人の移動及び物資(成果物の郵送など)の移動の制限は、文科省事業が2019年度に終了したことも重なり、ARIISWの活動そのものを鈍化させかねない危機的状況に追い込まれた。

ARIISWではコロナ禍以前から少しずつ進めていたオンライン会議を本格化させるとともに、ウェビナーのように物理的な移動を伴わずに国境を越えたネットワークを活用した研究プロジェクトを企画、実施した。また各国の事情等により文部科学省プロジェクトが未完となっていた事業を継続し「仏教ソーシャルワークの探究」研究叢書シリーズ3冊を刊行した。これまでにアジア7カ国／地域及び北米の仏教僧侶・信徒・僧院によるソーシャルワーク代替機能を持つ活動事例を紹介した叢書シリーズは和文英文あわせ15冊が刊行されている。さらに、研究員たちはコロナ禍以前より培ってきた海外研究者とのネットワークを活用し、オンラインによる国際会議への参加と国際共同研究の実施、海外ジャーナルへの投稿を続けている。

昨年度の活動の中でARIISWが予想した以上に世界中からの反響があったのが2021年2月18～19日にオンラインで開催した第5回国際学術フォーラム「脱植民地化・土着化・スピリチュアリティ・仏教ソーシャルワーク：ソーシャルワーク研究者は西洋生まれのソーシャルワークのグローバリゼーションに抗う」である。本フォーラムは、

共催者である日本ソーシャルワーク教育学校連盟(ソ教連)のご協力により、東京都港区の同連盟研修室をメインに、「仏教ソーシャルワーク」(ARIISW)、「脱植民地化」(南アフリカ、ケニア他)、「ストレスが人間に与える影響とソーシャルワーク、インディジナス・ソーシャルワーク、スピリチュアリティとソーシャルワーク」(カナダ、アメリカ)、「土着化(インディジナイゼーション)」(アオテオアロア・ニュージーランド)、「スピリチュアリティ」(マレーシア、フィリピン、インドネシア)を発信、24 時間かけて世界中をリアルタイムでつなげた。広報開始から大きな反響があり、当日のリアルタイム接続の参加者は延べ 426 人という過去最大規模の国際フォーラムとなった。このフォーラムをきっかけに ARIISW の存在を知った世界各地の研究者から、新しい国際共同研究のアイデアや問い合わせが続いている。

コロナ禍において物理的な移動は難しくなっているものの、ICT 技術の進歩により、世界各地の研究者とオンラインで身近に議論、共同研究やワークショップを企画開催できた。ARIISW の経験、研究者としての体験を参加者と共有し、コロナ禍だからこそできる研究について一緒に考えたい。